

21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部
発行者：亀田 泰武
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当
〒171-0011 東京都豊島区目白2-1-1
URL <http://www.21water.jp/>
E-mail info1@21water.jp

第29号 2013年8月27日号

『会の楽しみ』 — 「R (アール) の会」と「松の会」 —

監事 藤原 昇

▼産経新聞社政治部編集委員で阿比留瑠比（あびるるい）さんと言う有名記者がおられます。産経新聞の「視線」や「極言御免」の署名記事を見られた方も多いと思います。この阿比留さん



を囲んで話を聞く会が「R (アール) の会」で、瑠比 (Rui) の「R」と右 (Right) の「R」からとったものです。そうです！この会は、朝日新聞が、日本の国益を失わせることを目的にした共産国の新聞と信じている真の日本人の集まりです。鳩菅に対する阿比留さんの手厳しい批判は正にその通りと全員納得です。

現在、会員は20名強、国交省、厚労省、総務省など本省幹部の方は当然ながら多く入られています。この会のキッカケを作った小淵優子衆院議員秘書の山口修子さんや、管総研の高宮香織さん、ミス日本コンテスト事務局の和田優子さんなど美しい方もいらっしゃいます。21世紀水倶楽部の亀田泰武理事長は、対韓、対中国強硬派でランチもディナーでも中華料理店、韓国料理店にはあまり行きません。かなり頑強です。

▼少し面白いのは、この「Rの会」の中で、特にビールしか飲まないという阿比留さんや山口さん、高宮さんなどビール党が「阿・ビール会」（浴ビール）と名乗ってジンギスカン料理店に行ったり、ワインが好きな和田さんや新谷明日子さんたちを含む「ワイン愛飲会」ではイタリア料理店に行くなど、分会活動も活発です。

▼もう一つの会は「松（マツ）の会」です。一年前、国交省の那須基氏と、西日本新聞社の小野浩志氏と私の3人が会った時、3人共、松戸に住んでいると知って、それなら松戸に住んでいる業界の方と名字に「松」がつく下水道人にも声をかけて「松の会」

を作ろうということになりました。

会員資格を決める為、辞書で「松」の字の意味を調べてみたところ、「松」は、“長寿”や“節操”を象徴するものとして古来から尊ばれていることが判明したため、入会資格は①「松戸市」に在住しているか②名字に「松」の字が入っているか、どちらかを満たし、③“節操”があって楽しいお酒が飲めることとしました。

名字に「松」のつく下水道界人は意外と多く、現在20名を超えています。“節操”があるかどうかは別として、楽しい交流会を今後とも続けたいと思っています。

2013年度活動報告

研究集会「陸域における放射性物質の挙動を探る」報告

理事 渡部春樹

平成25年7月29日（金）に（公財）日本下水道新技術機構 中会議室において標記の研究集会が51名の参加者を得て開催されました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故で環境中に放出された



大量の放射性物質は、除染作業等によって除去が進んでいるものの、人への健康影響や生物への影響が懸念されています。下水汚泥についても依然として放射性物質の蓄積がみられ、処分や

保管等に苦慮する状況が続いています。本研究集会では、事故後2年余りを経て明らかになった陸域における放射性物質の挙動等に関する最新の成果を紹介していただき、意見交換を行いました。

研究集会では、亀田理事長の挨拶に続いて、国立環境研究所土壌研究室の林室長が「流域スケールでの放射性物質の動態」と題して講演されました。林室長は、茨城県霞ヶ浦流域と福島県宇多川流域での調査に基づき¹³⁷Csの流出率が小さいことなどを紹介されました。同じく国立環境研究所リスク管理戦略研究室の今泉主任研究員が「放射性物質の環境モデリングー陸域モデルー」について講演されました。今泉主任研究員は、多媒体動態モデルで¹³⁷Csの土壌中残留量は放射性崩壊よりやや早い速度で低下していくと予測しています。群馬県水産試験場の鈴木主任は「湖沼環境への影響ー群馬県赤城大沼」について講演されました。赤城大沼のワカサギの¹³⁷Csは原発事故から2年を経て大きく低下してきているものの、放射性物質の湖内循環によりどこまで低下するかモニタリングを継続している旨を報告されました。環境省廃棄物対策課の岩崎課長補佐は「放射性物質を含む下水汚泥に係る対応について」講演し、下水汚泥の保管に苦慮している福島市堀川終末処理場の造粒乾燥事業や福島県県中浄化センターの焼却事業について報告されました。

総合討論の最初に国土技術政策総合研究所下水処理研究室の山下室長が話題提供として、国総研が実施した下水処理への放射性物質の影響調査、下水道における放射性物質の挙動調査及び下水汚泥等からの放射性物質の溶出特性調査の結果を報告しました。総合討論では渡部理事が進行役を務めました。下水処理水中の溶解性Csの発生要因、大沼のワカサギへの放射性物質の蓄積メカニズム、下水汚泥への放射性物質の今後の影響、放射性物質の処理における便益とリスクのバランス等について活発な意見交換が行われました。

NPO等シンポジウム「くらしと水の応援団」報告

理事 阿部恭二

7月31日、下水道展13東京が行われている東京ビッグサイト(スイスイ下水道研究所プレゼンテーションルーム)において、当NPOの企画・運営により、NPO等シンポジウム「くらしと水の応援団〜いつ伝えるの? 今でしょ!〜」が開催された。80席を設けた会場はほぼ満席となった。

このシンポジウムは、水に関わる活動を行っている9つのNPO

等団体が集結し、水環境と市民の関わり方やNPO等の活動のあり方などを議論しながら、普段は意識されることの少ない下水道の役割と価値を探ることを目的に行われた。

参加したのは、川に関係するNPO全国水環境交流会、NPO鶴見川流域ネットワーク、NPOあらかわ学会、みずとみどり研究会の4団体、および下水道に関するNPO日本下水文化研究会、NPO下水道と水環境を考える・水澄、こてはし台調整池水辺を守る会、清瀬下宿ビオトープ公園を育む会、そして当NPOの5団体。司会進行は当NPOの栗原秀人理事が務めた。



紙面の都合からシンポジウムで注目された発言を拾ってみたい。

「下水道の皆さんが気にしているのは公共水域のBODだけ、その数値が幾ら改善されたかだけだが、大事なのは、(水辺に関わりのある)地域の人たちの喜びである」

「川に行くことによって水量にも関心を持ってもらえる。川の水は人々や生物の営みを支えているもの。下水処理水は重要な水源」

「川がきれいになって、私たちは本当に嬉しい。きれいになった原因は下水道の普及だが、ほとんどの人は下水道を知らない。下水道は自らをアピールすることを怠っている」

「“いい川”は誰が決めるのかという問題があるが、地域が合意した川こそ“いい川”。先入観が違えばおっしゃる方もいるが、汗を一緒に流すことで、その違いを解消できる。下水道も地域に一歩二歩と踏み出していきたい」

「企業も我々の活動を応援する時代になっている。そういう中で、下水道はいつも前へ出てこない。下水道は地域で前へ出る戦略を作っていたきたい」

発言の断片しか紹介できないのが残念だが、地域における下水

道の役割や価値を考える上で非常に有意義なシンポジウムだった。

なお、今回参加していただいた、当 NPO を含む 9 団体は、下水道展 13 東京スuisイ下水道研究所の一角に設けられた NPO コーナーにおいて、会期中の 7 月 30 日～8 月 2 日の 4 日間、パネル展示も行った。

会員だより

岩手県大槌町での活動 (2)

林 正生

夏の暑い日が続きますが、皆さんお元気でしょうか？

東北地方では、4 日梅雨明け宣言がありました。沿岸部ではやませがあり気温は低い日が続いています。



また、9 日の岩手県では、記録的大雨があり、住家の床上・床下浸水は、8 市町村で計 1,700 戸以上と被害がありました。8 月には、東北の夏祭り

りや花火も終わり、短い夏が過ぎていきます。

私の町の活動状況を一部報告させていただきます。

平日、仕事は忙しい日々が続きますが、土日の休みは、ボランティア活動等を行っています。

日曜日の朝の時間を有効活用するために、私が行っている「朝活@大槌」の取り組みについて報告します。

「震災に負けない！人との繋がりある魅力ある朝活です！！」として、隔週日曜日 8 時 30 分～10 時 30 分、大槌町役場内の町民室で開催しています。

役場の町民室では、人との交流の憩いの場となり、絆を大切に朝に集まる交流の場で、皆が楽しい時間を過ごし、元気になるよう行っています。

参加者は、町民の方をはじめ、ボランティア、大槌町職員や全国各地からの派遣された職員等が集まります。



初めてという方でも気軽に参加しやすいように、面白いと思われるテーマを決め各自の考えを述べ合ってシェアする形式で行っています。今後、役場の町民室を飛び出して、仮設住宅の談話室でも開催する予定です。

テーマは、毎週変わりますが、おすすめの本、お国自慢、おすすめのお店・思い出の店、思い出・おすすめの映画等の話題にしています。例えば、おすすめの本では、セイバーメトリクス・レポート 2、黒部の太陽、ゴルフルールブック、道の駅、カイゼン大河、大豆が教えること、限界集落株式会社、HORS COURT 等の本が各参加者から出て、おすすめ処を説明頂き、面白さを伝えてもらっています。本が読みたくなります。

私と朝活の出会いは、2012 年 7 月 22 日朝活@富山の講習会に初めて参加して、7 月 29 日、富山と東京の学生朝活の skype による「価値観シェア」の中継で、東京の多くの人達と交流して知り合うことができました。その後、岩手県大槌町に来て、被災状況を目にしたとき、人の繋がりを大切にすることが重要と考え、2013 年 1 月 13 日に朝活@大槌を立ち上げ、自分自身が朝活という場の進行役をしています。

現在、朝活@大槌の開催回数や参加メンバーは少ない状況ですが、参加された方が“楽しかった！”と言われ、再度参加されることが活動の励みとなっています。

いろいろな出合いを大切に、今後とも続けていきます。

次回は、町の案内について報告をします。 つづく

ロサンゼルス見聞録その 17 エンディバーの展示館

内田信一郎

スペースシャトル計画は 1981 年に開始され 2011 年に終了したが、この間に 135 回も国際宇宙センター (ISS) との間を往復するという輝かしい記録を残した。何回も修理・改良して再使用する目的で製作されたスペースシャトル計画が予算削減等で終了したが、地元「ケネディ宇宙センター」にアトランティス号、ニューヨーク市の「イントレピッド海洋航空宇宙博物館」にエンタープライズ号、そしてロサンゼルス市の「カリフォルニア科学センター」にはエンディバー号が展示され、過去の輝かしい技術開発の歴史を多くの国民に知ってもらう目的で展示されることになった。このほかに事故を起こしたチャレンジャー号とコロンビア号があった。

昨年 9 月末にフロリダ州のケネディ宇宙センターから B747 型機の背中に乗ったエンディバー号は途中のサンフランシスコ

市のゴールデンゲートブリッジ上空やロサンゼルス郡のデズニールランド上空をデモンストレーション飛行してロサンゼルス国際空港に到着した。そこでトレーラーに積み替えられダウンタウンの科学センターまで約68時間をかけてゆっくりと搬送されたが、エンディバー号の重さ約111トン、長さ約37m、幅約24m、高さ約18mの巨体をどうして運搬したのかを映像で示



しているが、高速道路の立体交差部ではこの高さをクリアし、また道路幅が片側4車線以上あって地上の運送が可能であるルート

を探したのであろう。一部街路樹を切り倒したと聞いているが、途中の沿線で市民から熱烈な歓迎を受けた。

さて、期待に胸を膨らませて土曜日にその展示館に入ったが思ったほど混雑はしていな

い。胴体の下部は耐熱タイルも真っ黒で、大気圏再突入の高温状態を物語っている。スペースシャトルはアルミ合金で出来ていて、



高温対策のために耐熱タイルが張られているが、その耐熱タイルとアルミ合金の熱膨張率の差により剥がれてコロムビア号が再突入時に高温に耐えられなく爆発事故を起こした。安全性からこの点が改良されているが課題が多く残っていたようだ。館内の売店で粉末・乾燥状態の宇宙食を買って食べたが、口に入れると溶けるようになっていた。宇宙空間での飲料水、汚水処理に限度があるためこのような工夫がされたのであろう。地上でも経済性がクリアでき、宇宙食が日常食になると、食事関連に必要な水消費量の削減、無機物が少ないために発生汚泥量が減少する等、下水道施設の形態が大きく変わると思った。

編集幹事のあと整理

- 巻頭文は藤原監事の「会の楽しみ」。藤原氏は6月の総会で監事に就任されました。その文からすると、多彩な交友関係をお持ちなのですね。当会の亀田理事長とはそちらのほうでもおつきあいで、亀田氏の各国料理の好みも披露されています。参考にさせてください。
- 7月19日開催の研究集会「陸域における放射性物質の挙動を探る」の報告文を渡部理事からいただき掲載しました。除染が進んだといっても、下水汚泥にも蓄積が未だ見られるので、その問題意識からの研究集会でした。
- 毎年恒例の下水道展の今年の会場は東京ビッグサイト。下水道展に当会は「クイズラリー」（みづなぐプロジェクトの活動チーム）で参画しているが、今年は加えて、水に広く関係するNPO九団体（当会を含む）のシンポジウムを同会場内で開催し、司会は当会の栗原理事が務めた。そのレポートを阿部理事からいただきました。
- 会員だよりの連載もの、林会員の「岩手県大槌町での活動」は2回目。「朝活」の効用です。はやりの「・・活」の新版ですね。
- 林正生会員はfacebook上でもその「朝活」をはじめ、大槌町の状況を紹介しています。「林正生」の実名で検索できます。FB上でも「友達」になっては如何でしょうか？
- 会員だよりの連載もの、内田会員のロサンゼルスシリーズは17回目で、「エンディバー」。終了となったスペースシャトルのひとつ「エンディバー号」をロスアンゼルスに運搬・展示したいきさつです。なお、内田会員からのメールでは、ロスの今年の夏は最高気温25℃だそうです。
- 会員日よりコーナーへの投稿を熱望します。投稿時期はいつでも。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月